「本別営林署は廃止せず」

―林野庁長官が井出氏らに確約―

十六日の本別町議会に本別地区林政共斗会議（新行実議長）から「国民のための国有林経営を求め営林署事業所の統廃合に反対する請願書」が山口勝治議員の紹介によって提出され、二十日からの整理町議会にも全林野陸別分会からの同趣旨の要請にもとづいて林床治議員から陸別営林署の統廃合反対の意見書が提出され、いずれも地域経済にあたえる影響は大きな問題として、慎重、厳新を問わず二町議会とも全会一致でこれを採択として、橋本大臣をはじめ関係方面に意見書を送付することにしました。

足寄は立場が違う

二十日からの足寄町議会にも足寄地区林政共斗会議と全林野足寄分会から同様趣旨の請願を菅川博敏、島正吉の両議員の紹介によって提出されましたが、ここは満場一致とならずに産業委員会へ調査を付託となりました。

というのは、林政合理化そのものに理解をもたない議員もいることと、足寄営林署は県字経営であり、統廃合となれば本別も陸別も上士幌も足寄へ統合になるといううわさもあり、元分に調査のうえ明年三月の定例会に報告して結論を出すことになるもようです。

地域の死活問題

すでに第一弾として看板の撤去、格下げが明らかにされており、つづいて営林署の統廃合が時間の問題となってきたもので、林野庁では前、署の統廃合はもとより

直営、直営事業の縮小
苗畑、貯木場、別倉敷地の買収
高令者の退職促進と新規採用の非制
各種事業所の縮小、廃止

など、もっぱら大量な人べらしに向っています。

このままでは奥山村の過疎化に拍車をかける一方、奥地で事業所に奉職している多数の町民の職場が奪われ、特に技術系職員については多年永住の町民が多いので、営林署の廃止は商工業者にとっても死活の問題ともなっています。

しかも本別営林署の場合は多くの事業所を足寄町の行政区域に入っているので統廃合の対象にされるおそれがあるとして本別町商工会（井出利一郎会長）としても物議しているわけにはいかず、反対運動に立ちあがらざるを得なくなったものです。

深夜の五者会談で

井田会長は五年前の四十八年に営林署の統廃合問題がおきたときには自民党本部支部長だったので、支部の安久津庶人調査会長に全林野労働組合本別分会の代表とともに上京して阻止運動にあたったものです。

このたびは新年度予算編成のなかで林野庁関係予算のなかで特に営林局、署の統廃合については二十二日の閣議で決定するとの情報があったので、井出会長はふたたび全林野分会や林政共斗会議の幹部の同行上京を求めたもの、唯然であることと、いずれも公務員で年末多忙のため参加は難しいとのことで、そのかわりに反対陳情のための資料を提供してもらい、「町民の声をひろめる会」の代表らとともに二十二日に上京しましたが、旅費は商工会から支出するというのは別つて自費で運動にあたったものです。

二十二日は町村会五氏をはじめ管内選出の自民党、社会党の各国会議員に陳情してまわったあと、自民党の林政特別委員長として当選、林野行政にもっとも影響力をもっている立場の本名武代議士をわずらわして林野庁長官室で荒勇義球長官と秋山智嘉農政局長と直接二時間余にわたって陳情におよぶことができました。

なにしろ予算折衝の真っ最中とあって年間もっとも繁忙のさかなので午後九時すぎからの話し合いとなりましたが、本名代議士は持論の国家百年の大計論で、「子孫のためにいまこそ費源を作っておくべきでそれには国が営林施業事業をやるべきだ」と強調、林野特別会計が赤字なら一般会計から五百七十億円の借り入れを決定させ、さらに治林林道、治山事業などの予算については企業開発投資枠にもとずく繰り入れを大蔵省と協議することを確約させるとともに本別営林署の存置を求めたものでした。

その間にアメリカから帰国した牛場経済外交担当大臣から電話連絡で外材の輸入増が要請されての打ち合せともなりましたが、これに対して本名代議士は異論をはさんでいました。

この大局的な立場からの本名代議士の発言が翌三十三日の閣議で決定されたとの知らせをうけて、またまたこんどはお礼の表敬訪問という形で午後十時すぎから長官室で五者会談を再開したもので、この席では営林局長官も秋山館長も「よくわかりました、出来る努力します」という月並みなことばではなく、井出氏らひとりひとりに強く握手をかわしながら「本別営林署は絶対に廃止しません」とかわるがわる確約してくれたもので、予算編成の重要時期にタイミングよく上京して林野行政の最高責者と接触した意義は大きいものです。

議員定数は現状で

陳情は不採択

足寄町議会

足寄町議会の第四回定例会は二十日午前十時にひらき、はじめに小林町長から東小学校通学区域反対同盟（大野幹太郎会長）とのあいだで

一、通学専用道路が旧協定書どおり履行できないことを了承し、こんご都市計画事業による市道等街路計画に移しかえ早期完成に努力する

二、それまではスクールバスを運行し、その後の運行の要否については、その時点において双方協議する

などの協定変更についての行政報告があってから、会期を三日間として議事に入りました。

各委任委員会の報告について議員定数に関する特別委員会（大久保繁委員長）の報告があり、議員定数の減少についての答申三部民の陳情は不採択と決定し、その理由として

一、陳情書に住民の意志が反映されて削減の方向を示されたとあるが、公聴会における公述人の反対意見に相通ずる点が調査の町村にも見受けられ不備普通の町政実現のためにも定数を減ずべきでない

二、地方自治体の組織規模は巨大化していると陳情書も述べているが組織規模が巨大化し広大なる地域に散在する町民の多様化した要望不徹化のためにも現定数が望ましい

三、管内十九カ町村、各町村の当選平均得票数を見ても本町は上位にあり、有権者数に比して議員が多いとはいえない

となっており、これに対して委員の方かで少数意見を同保した石田富男委員（賛成大綱正夫委員）から

一、地方自治法は議員定数基準のワクのなかで何名の議員定数にするかは市町村の意志に委ねられている

二、道内の一万人から一万五千人の人口を有している町は二十四カ町あるがその十七カ町、また十勝管内においては当町と同じような状態の町が七カ町あるがそのうち五カ町が法定数より減じているこのような道内、管内のすう勢からみて、当町においても町民の方にたえて議員定数を減少すべきと考える

との報告があって、各議員から委員長や少数意見者への質疑があり、討論に入って陳情に対して矢野宮一議員が反対、遠山議、花田幹男議員が賛成で、起立採決の結果、十四対九の多数決で陳情は不採択となり、二十六名の議案は現状どおりとなりました。

三町消防組合議会

池北三町消防事務組合議会の第四回定例会は十九日に足寄町消防本部でひらき小林管理者の行政報告があって一般質問に入り、四野一郎議員が水防問の消防体制をただし、天野物津議員から組合消防といっても実際には三町がそれぞれ独自でやっているようなもので予算もそう簡単体系もバラバラで指揮命令系統もハッキリしない、組合の市り方を再検討すべきではないかとの質問に対して、小林管理者は突然のことなのでこんご充分に検討したい、本元藤管理者は風田から戸まで四、遠くもあり、団と署との特殊な面もあり、消防本部の市り方は運営機関として検討したい、杉田副管理者は管理者と同様に充分検討したい、などと答えました。

千春の新アルバム

松山千春の二度目のアルバム・レコードが新春の一月二十五日発売にされます。タイトルは「こんな夜は」で、当日は、別あがりの街一面風にめぬぐ一瓦を見つめて一走れ夜汽車一こんな夜は一君が好きさ一貴方だけに一帰ろう一一君はもばに一父さん一涙一の十一曲がおさめられています。

予約申しの込みの方に千春の大型写真がつきます。

お正月の二日、三日
福袋付初大売り出し
農業協同組合、町村共済組合・指定店
ミヤケ時計店
足寄町三区通り　T ㊗二六〇七

足寄新名所！
楽しい銘石湯でおつぐろ吉下さい
小宴会、大宴会、各祝賀会に
グリーンパーク
ドライブイン・大駐車場完備！
足寄町里見が丘公園　T 五―三一七五

家具と建材
信用は最大のサービス
技術と納期を誇る！
家具　建具　製造販売
住宅内装に新建材を！
佐藤家具建材店
足寄駅前　T五―二二二一番

赤外線焼付塗装ブース導入！
エナメル焼付塗装　オールUSA塗料使用
札幌陸運局認証　整備　板金　塗装
ムトウ自動車工業
足寄町　T五―二五七八　三七一九

冬物衣料を各産地から
沢山仕入れてきました
ただいま陣列を完了しまして
皆様の御用命をお待ちしております
是非御来店下さい
株式会社　前田呉服店
足寄町駅前商店街　T五―二〇二三

住宅産業に奉仕する店
新築改築のときはご相談下さい
家具　建材　サッシ　住宅設備機器
有限会社　桜井家具建具店
足寄町本通り南三丁目　T五―二三六二
アコーデオンカーテン　サッシ網戸
各種ご注文承ります
注文建具　注文サッシ　製作部
足寄町四五区　T五―三三一五

防雪超軽量　油脂用ミニテンツー各種
同　豊祥川、除雪用刈払機各種
防雪スパイクポッチャ軽
防雪防雪手袋各種
共立製スチームもちろん針葉樹
各種大量入荷
マキタ　日立　東和　電動工具長瀬青砥芳彩代理店
（除雪の修理は誠実水位の当社へ）
林業機械　有限会社　鈴木鋸刃物店
造林用具
電動工具
本社　足寄町大通り　T　五―二三〇七
営業所本町南二丁目T二―四九二三